

大牟田市動物園への指定管理者制度の導入

福岡県大牟田市

人口：131,070人

面積：81.55 km²

平成18年度事例集、4項No13掲載事例

取組の概要

公募による指定管理者の選定を行い、平成18年4月から民間の株式会社による管理運営に移行した。

開園時間の延長や新たな事業の実施による市民サービスの向上とともに、平成19年度当初予算ベースで59百万円の人件費及び管理運営費の削減が図られた。

取組の紹介

1 その後の状況

指定管理者制度を導入した効果として、①コスト削減 ②入園者の増加 ③民間事業者による黒字経営などが挙げられる。また、平成19年3月には、市民の親しみと愛着を増進させ、魅力ある動物園づくりをめざし、施設の充実や展示動物の購入等を目的とした「動物園ゆめ基金」を創設した。また、これに伴い、同年7月から、動物園サポーター事業を開始した。

このほか、経常的なモニタリング及び評価の取組として、指定管理者との連絡調整会議を設置し、定例報告事項として、①入園者数及び利用料金の収入実績 ②実施した催事、イベントの内容 ③アンケートの結果及び業務の改善状況 ④施設の管理状況 ⑤特記事項（動物の飼育状況や事故、苦情等） ⑥報告事項（日報、各種点検記録表等）などを求めるほか、さまざまな事項（避難誘導訓練の実施、駐車場問題の対応、個人情報保護についての研修等）について毎月協議を実施している。

※動物園サポーター事業

この事業は、動物園を支援していただける団体・企業等（団体サポーター）や個人（個人サポーター）などを対象に広く御支援を募り、市民の貴重な財産である動物園を身近に感じてもらい、より魅力ある動物園づくりを行っていくものである。

1. 募集期間

平成 19 年 7 月 1 日から随時募集

2. 対象

大牟田市動物園サポーター事業の趣旨に賛同する個人及び企業・団体等
(大牟田市民以外も可。)

3. 登録期間

動物園サポーターに登録した月日から翌年の当該月末まで

4. 動物園サポーターの寄付金

- ・ 個人サポーター
大人：1 口…2,000 円
中学生以下：1 口…1,000 円
- ・ 団体サポーター
団体・企業等：1 口…10,000 円

特典

- ・ 動物園サポーターに登録された方（個人のみ）へ年間パスポート（登録証兼無料入園券・登録期間中有効）の発行
- ・ 「イベント情報」や「動物園だより」の提供
- ・ 限定の特別イベントへの招待（年 1 回程度）

その他の特典（以下は、登録を希望された方のみ）

- ・ 団体サポーターとなった企業・団体等の名称を動物園だよりに掲載
- ・ 5 口以上寄付したサポーターの個人名又は企業・団体等の名称を、登録期間中、動物園の掲示板に掲載
- ・ 10 口以上寄付した団体サポーターの名称を園内に設置した看板に掲示

5. 寄付金の使途

寄付金は、市が設置する「動物園ゆめ基金」へ繰り入れて、展示動物の購入、園舎などの施設の整備、動物園サポーター事業等に伴う費用に充て、魅力ある動物園づくりに役立てていく。

2 前回からの取組効果

- ・ 平成 18 年度の入園者数は、対前年度比 11.4%増、入園料収入額も 8.4%増となった。増要因としては、①入園者サービス向上が好評でリピーターが増えていること ②ふれあい動物園として企画・展示（餌やり体験等）が充実したこと ③イベント効果 ④テレビ・新聞等の効果による集客エリアの拡大等が挙げられる。
- ・ 指定管理者制度導入による人件費及び管理運営費の削減効果額は、寄付金により動物購入（キリン）、維持補修等を行い、平成 18 年度決算においては 64 百万円となっている。また、平成 19 年度当初予算においても 59 百万円の効果額を見込んでいるところである。
- ・ 常時行っている動物園入園者に対するアンケート結果においても、接遇マナーの向上

や園内清掃の徹底等、概ね良好な評価を得ている。また、アンケートによる意見・要望等から動物園サポーター事業の中で年間パスポートを実現する等、改善に向けた取組も行っている。

- ・ 指定管理者による「動物とのふれあい」を主テーマにした定期イベントの実施等の営業努力が功を奏し、平成 18 年度管理業務全体の収支実績において黒字を計上した。

(定期イベントの例)

飼育員による動物ワンポイントガイド、動物園スタッフがガイドする動物園観察会、キリンとゾウとのふれあいタイム、ヒツジの毛刈りちよこっと体験、夏の夜の動物園、動物園一日飼育体験、おとなのための動物園講座と観察会（講座内容：「動物の行動トレーニング」「サル社会構造」「動物の福祉と環境エンリッチメント」等）、動物クイズラリー 等

3 新たな課題・問題点

老朽化が進む園内施設をどのように維持・補修していくかが、依然として大きな問題である。これについては、市の財政状況が逼迫する中で、今後、十分な財源確保が厳しい状況にあることから、「動物園ゆめ基金」を創設し、動物園サポーター事業を導入しながら、市民協働による施設の安定的な運営と魅力ある動物園づくりに努力している。今後、この動物サポーター事業を充実させ、動物園ゆめ基金を有効に活用することが課題と言える。

4 住民（職員）の反応・評価

動物園利用者の反応は、アンケート結果等からみても、概ね良好といえる。しかしながら、次の発展段階として、市民及び利用者からの要望は、展示動物の充実や駐車場の拡充等、さらなる充実・発展を望む声であり、市民の憩いの場としての周辺一帯や公園を含めた総合的かつ長期的なビジョンの策定が必要となってきた。

(利用者アンケートの一部)

「キリンやゾウにえさをやれたのでうれしかった。」

「初めて来たけどすごく楽しかった。」

「モルモットレースがおもしろかったです。」

「フクロウのフクちゃんの説明やら、知らないことがわかり、勉強になりました。」

「初めて来ましたが、動物とすごく近い距離で興奮しました。飼育係の方々もエサやりの時間など質問すると、気さくに答えてくださってうれしかったです。親しみやすい感じで、また来たい気持ちになりました。ありがとうございました。」

「ふれあい広場のスタッフが子どものわがままにも親切に対応してくださって、本当に嬉しかったです。また今度ぜひ伺いたいと思わせてくれる動物園でした。」 等

(利用者アンケートのうち、利用者の要望が含まれているもの)

「そのうちライオンとかカンガルーとかにエサをあげられるチャンスを作ってください。」

「動物の散歩も見せてほしい。」

「子どもが多いので、禁煙にしてほしい。」

「お店を増やしてほしい。遊園地の乗り物を増やしてほしい。」

「年間フリーパスがあれば良いといつも思います。」

「乗り物がもう少しあればなあ。」

「付近まで来た時、動物園駐車場の案内はあるが判りにくかった。」 等

5 今後取り組む自治体に向けた助言

厳しい財政状況での市政運営を行っている各自治体にとって、その施設が市民にとって必要かどうか再検証する必要がある。

本市においては、平成 16 年度に策定した「公共施設見直し方針」の中において、大牟田市動物園について、当初は、「廃止も視野に入れつつ民間活力導入を検討」という基本方針案を示し、パブリックコメントに臨んだため、市内で大きな議論が巻き起こり、市民による存続に向けた大規模な運動へと発展した。

その結果として、「市民の皆さんの御協力をいただくことによって動物園を引き続き運営できるよう努める」という基本方針に修正し、主にコスト縮減・効率化のために指定管理者制度を導入したという経緯がある。

これらのことから、施設の必要性、役割及びコストに関する情報、見直しの必要性や趣旨等については、できるだけ市民全体に問いかけて、市民から存続、廃止を含めた多くの声を出してもらうことが必要であり、このことが市民参画意識の高揚につながると思われる。

これまで市直営で管理運営を行ってきた動物園への指定管理者制度の導入や、市民の動物園に対する親しみや愛着の増進に寄与する動物園サポーター事業等という取組についても、根本から議論を行い、共通の認識に立つという民間企業及び市民との協働を通じて、初めて効果が出ると考えられる。

(参考) 当該取組内容の関連ホームページ

http://www.city.omuta.fukuoka.jp/chiiki/gyousei/kaikaku/b8_42fa95c4_574.html

<http://www.omutazoo.org/>

担当部署：総合政策課行財政改革推進室